

令和2年度第1回中央区自殺対策協議会 議事（要旨）

1 日時 令和2年11月5日（木） 午後1時30分から午後2時30分まで

2 場所 中央区保健所2階大会議室

3 出席者

【委員】

勝又陽太郎（委員長）、平賀正司（副委員長）、岩重佳治、石松伸一、池田真人、宮崎舜賢、羽鳥賢三、栗山幸夫、岩田健太（代理）、谷口拓（代理）、松本進（代理）、長崎隆康、芳賀敏（代理）、小森元（代理）、西脇良和（代理）、遠藤龍雄、田中智彦、吉田和子、山本光昭、生島憲

【事務局】

健康推進課長、予防係長、健康推進担当係長他

議題

- 1 中央区の自殺の実態
- 2 今年度の取組
- 3 自殺対策計画進捗確認シート
- 4 その他

議題に入る前に委員の互選により勝又委員を委員長として選出し、委員長により平賀委員が副委員長として選出された。

議事の経過

1 中央区の自殺の実態について

【事務局からの説明】

令和元年の自殺者数は35人（男性23人・女性12人）、自殺死亡率は21.54となっており、昨年度（自殺者数31人）と比較して上昇しているが、本区は人口が少ないため、若干の自殺者数でも年ごとに数値にバラつきが出てしまう。

傾向としては、男性の割合が平成30年度から若干低下している一方、女性の割合が上昇している。同居者の有無は46%の16人が「なし」となっており、国の割合（30%）と比較すると高いことから単身者の自殺者が多い。

自殺者のうち、無職の者が5割弱と昨年の3割から大きく増えているものの、国の6割弱と比べると低く、当区の自殺者は有職者の割合が高くなっている。

自殺原因は健康問題と勤務問題が上位2つであるが、例年は健康問題、経済問題、家庭問題の順で原因が多いため、今回新たな傾向が見られることから、今後もこの傾向が続くかどうか注視する。

自殺手段としては全国と同様、首吊りが多いが、本区においては飛び降りが全国と比べて突出して多い。

【委員からの意見】

新型コロナウイルス感染症の影響を今後どう見通すか難しいが、今年以降、どうなるのかをじっくり見る必要がある。また、自殺をコロナという1つの原因に結び付けずにケースごとに支援していくことが必要なため、実態を分析するには時間が必要である。

2 今年度の取組について

【事務局からの説明】

「うつ病・自殺予防に関する普及啓発」として、メッセージカード・リーフレットの窓口配置を行い、9月と3月の自殺対策強化月間にはポスターや懸垂幕の掲示、広報紙での特集号を発行する。あわせて、区役所等でのパネル展示会、街頭キャンペーン、江戸バスでのポスター掲示も実施する。しかし、3月の街頭キャンペーンについては、コロナの感染状況次第では中止となる場合もある。

『「気づき」のための人材育成」として、ゲートキーパー養成講座を年3回実施する予定である。第1回については、区内小中学校の生活指導主任を対象に書面による講座を開催し、今後は区職員等を対象に実施する予定であるが、新型コロナの感染状況を踏まえ、開催形式を検討する。

「関係部署・団体とのネットワーク構築」として、昨年に引き続き、京橋図書館と連携し図書館入口に自殺予防に関する書籍を展示した。また、中央区に関わるあらゆる人々の生きづらさを軽減するという理念に基づき、関係部署・機関で役割分担をして、事業を進める。

【委員からの意見】

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を進めることが難しいと思うが、区が取り組んでいる各事業は基本となる対策であるため、工夫を行いながら続けてもらいたい。また、都市部は個別ケースになかなか手が届きづらい部分もあるがネットワークを生かし対策を進めてほしい。

3 自殺対策計画進捗確認シートについて

【事務局からの説明】

関係部署や団体の協働による自殺予防に資する事業が自殺対策計画に84個リストアップされている。これらの事業を連携させ、生きづらさの軽減という区における自殺予防対策の理念を達成するため、自殺対策計画を前進させていきたい。

【委員からの意見】

妊産婦に対して出産期のケアをしていくということ、若者の自殺予防という観点から自殺予防教育を実施していくということが特徴的だと思う。

女性の自殺が多いということを踏まえ、今後、データを見ながら対策を考えていきたい。

4 その他

【事務局からの説明】

今後のスケジュールとして、令和3年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定であることから、次回協議会を令和3年11月頃に予定している。時期が近づいたら改めてご連絡する。